

2023年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
 【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。
- ・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	32 英文学専攻	責任者	里見繁美
基準5	学生の受け入れ	自己評価	C
★基準5の自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
<<回答>> 入学定員の充足率の面で問題があり、当該評価とした。			
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。		
★<学生の受け入れ方針>（記入してください。） 文学研究科英文学専攻修士課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。 1. 英文学、米文学、英語学、英米文化を研究するのに学部で培った十分な基礎力を持ち、専門的に高度の知識を修得することのできる学力を有している。 2. 文学作品をよく鑑賞し、異文化圏への正確な理解と判断によって自己の課題、社会的課題を意識し、その対応方策について考え、創造的に表現できる。 3. 英語圏の学問に対し厳しさをもち、その喜びを感じて研究活動に取り組み、高度職業人として社会に貢献する意欲を持っている。 4. 英語を通じて学修する高度な専門技能を、海外留学により更に深め、国際人として社会に貢献する意識を持っている。			変 有（ ） 更 無（○）
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針、基礎要件確認シート 15		
評価の視点2※ 【基礎要件●】	方針には、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を踏まえて設定している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針		
評価の視点3※ 【基礎要件●】	入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示され、公表している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針		
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。		
評価の視点1※	学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報、A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程		
評価の視点2※	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供を適切に行っている。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報		
評価の視点3※	専攻ごとに入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備している。 根拠資料→A3-11* 入学センター規程、B5-15 部局内入試委員会名簿		
評価の視点4	公正な入学者選抜を実施している。根拠資料→A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程		
★項目(2)5-2①公正な入学者選抜を実施するため、どのような取り組みを行っているか、根拠資料を用いて回答してください。			
<<回答>> 数種の試験ごとに入試委員が決まっており、かつチェック委員が問題を点検している。		<<資料名>> 32-C5-1 : 2023 年度大学院入学試験・英文学専攻委員（出題・採点・面	

		接・問題チェック担当)
★項目(2)5-2②オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施(オンラインによる入学者選抜を検討していれば、実施する場合における課題やメリット等を記述してください。)		
<回答> オンラインのみの入学試験は行っていない。		
評価の視点5	入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。(一般入試及び多様な入試への対応) 根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程	
★項目(2)5-2③オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保(受験者の通信状況の配慮等)(オンラインによる入学者選抜を検討していれば記述してください。)		
<回答> なし		
◆学生募集及び入学者選抜について問題点があれば記述してください。(ない場合は「なし」と記入)		
<回答> なし		
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。	
評価の視点1※ 【基礎要件●】	専攻の入学者数は、入学定員に対して適正な数である。(2021年5月1日現在) 注:定員管理の指針 入学定員に対する入学者数比率(5年平均) 定員超過→2.00以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50 未満(改善課題)、博士課程 0.33 未満(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表2、表3、基礎要件確認シート16	
評価の視点2※ 【基礎要件●】	専攻の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持している。(2021年5月1日現在) 注:定員管理の指針 収容定員に対する在籍学生数比率 定員超過→2.00以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50 未満(改善課題)、博士課程 0.33 未満(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表2、表3、基礎要件確認シート16	
評価の視点3	収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応	
★項目(3)5-3 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合、当該部局としての改善策(今後実施予定のものも含む)根拠資料を用いて回答してください。		
<回答> 英文学専攻独自の「授業見学ウィーク」を実施し、本学学部生(英米文学科生以外の学部生含む)からの内部進学率上昇に向けて、大学院授業を体験してもらう機会を設けた。		<資料名> 32-C5-2: 2022年度授業見学ウィークの実施について
点検・評価項目(4)	5-4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
評価の視点1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 根拠資料→B2-51 2023年度点検・評価シート B2-52 会議録(または準ずるメール記録):(開催日)2023年度自己点検・評価について	
評価の視点2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っている。	
★項目(4)5-4 改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。		
<回答> 毎年、自己点検・評価を行い、改善・向上に向けて検討している。大学院生が中心となって開催している「英文学シンポジウム」と「特別講義」に学部学生を参加させ、英文学専攻への内部進学率増加に向け情宣活動を行っている。		<資料名> 32-C5-3: ①2022年度英文学シンポジウムの開催について(開催日:2022年11月13日) ②2022年度英文学専攻特別講義の開催について(開催日:2023年2月21日・22日)

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・ 特色	
-----------	--

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題 点・ 課題	
----------------	--

IV 【改善計画（事業計画）】

カ テ ゴ リ	計 画 番 号	B票No. or 開始 年度	改善計画 (アクション プラン)	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画

V 【内部質保証委員会による点検・評価】

<p>2022年度<所見></p> <p>学生の受け入れ方針は、学位授与方針、教育課程の編成方針との一貫性が、webサイト等の根拠資料から明確である。求める学生像や入学希望者に求める水準等の判定方法についても、webサイトによって明確である。学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していること、専攻ごと入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備し、公正な入学者選抜を実施していることについても、webサイトその他の根拠資料から、確認することができる。学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価する作業も行われていることが根拠資料から確認できる。オンラインによる選抜は実施されていないが、公平な入学者選抜を実施するための取り組みとして、数種の試験毎に入試委員が決まっており、なおかつチェック委員が問題を精査していることは評価できる。</p> <p>修士課程における入学定員に対する入学者数比率（5年平均）は0.52、収容定員に対する在籍学生数比率は0.60であり、適正範囲内で管理されていると判断できる。改善・向上に向けた取り組みとして、英文学専攻協議会で議論し、英文学専攻独自の授業見学ウィークを実施することとしたこと、大学院生が中心になって開催している「英文学専攻シンポジウム」「特別講義」に学部学生を参加してもらい、英文学専攻の情宣等を行っていることは、高く評価できる。</p>
<p>2023年度<所見></p> <p>学生の受け入れ方針は、学位授与方針、教育課程の編成方針との一貫性があり、学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定し明確に定められている。公正な入学者選抜を実施するため専攻内において試験毎に入試委員が決まっており、委員以外が試験問題作成に携わらないように配慮していることは評価できる。</p> <p>2023年度の入学志願者数は2、入学定員に対する5年平均比率は0.48、収容定員充足率は0.70、となっている。</p> <p>授業見学ウィークを実施や、大学院生が中心となって開催する「英文学シンポジウム」と「特別講義」に学部学生を参加させ、英文学専攻への内部進学率増加に向け情宣活動を行っていることなど、評価できる。一方、事業計画としてアクションプランが策定されていないので、これまでの改善計画に加えて新たなアクションを起こす必要もあるのではないかと。例えば情報発信の場としてSNSの利用なども一考であろう。今後も取り組みを続けられ、志願者増加、収容定員充足率の改善に繋がることを期待したい。</p>

◆評価の基準について

※学部、研究科等評価基準

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。

B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

（解説）

大学は、その理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定め、公表しなければならない。また、入学定員及び収容定員を適切に定め、公表しなければならない。

大学は、その受け入れ方針に基づき、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒及び外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備し、入学者選抜を公正に行う必要がある。

大学は、教育効果を十分に上げるために、入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しなければならない。

大学は、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。